

献辞

このたび、井ヶ田良治先生がめでたく古稀をお迎えになりました。心よりお慶び申しあげますとともに、長年にわたる先生への感謝の気持ちを込めて、ここに記念論文集を献呈いたします。

先生は一九五一年に同志社大学法学部に奉職されて以来、わたくしどもの導きの糸でありました。先生のご専門は日本法制史であり、そのご研究の成果はつねに学会の注目の的でありました。この間、先生は一九八五年に『近世村落の身分構造』（国書刊行会、一九八四年）を世に問われ、同研究により法学博士号（大阪大学）を授与されました。この書に代表される先生の数々の実証的なご研究は、今後とも学会の貴重な財産として残るに違いありません。

しかし、先生はアカデミズムの世界で指導的役割をはたされただけではありません。なによりも差別と闘い、反戦平和の道を追求されました。先生の打たれた警鐘は、いまなおわれわれの胸中に響きます。われわれは、先生の学問的姿勢に魅了され、かつこうした情熱的なお姿に圧倒されました。

また先生は誰よりも魅力的な講義をされました。学生の一人一人を大切にされました。先生の講筵に列なり、研究室やときには居酒屋などで、人生のなんたるかをお教えいただいた学生は数え切れません。かれらは、先生のご助言やご教示の数々をいつまでも心中に深くとどめることでありましょう。

先生は、もとよりいままなお現役であります。その旺盛なご研究は決してやむことがありません。しかし、この度の古稀をひとつの区切りといたしまして、先生がさらにご健勝でますます活躍されますよう、ここに祈念したいと思いますのであります。

一九九八年一月七日

梅 津 實

法 学 部 長